

令和7(2025)年度 下都賀地区自閉症・情緒障害特別支援学級担当教員等研修会を

開催しました

日時 令和7(2025)年6月13日(金) 13:30～16:00

開場 下都賀庁舎(大会議室)

対象 下都賀地区小・中・義務教育学校教員

(下都賀地区小・中・義務教育学校 自閉症・情緒障害特別支援学級担当教員等)

I 研修の目的・内容

(1) 目 的

自閉症・情緒障害及び発達障害のある児童生徒の発達の段階や障害の特性に応じた指導内容・方法に関わる基礎的な知識や技能を習得し、指導者(個別対応をしている教員等を含む)としての資質と指導力の向上を図る。

(2) 内 容

講話・協議「自閉症・情緒障害のある子どもへの理解と対応～自立活動の授業を通して～」

講師 総合教育センター教育相談部 吉江 恵美 指導主事

2 本研修で確認したこと

(1) 特別支援教育の推進について

ア 栃木県の取組：栃木県教育振興基本計画2025(特別支援教育の充実)

イ 下都賀地区の取組：下都賀地区学校教育の重点

「一人一人の教育的にニーズに応じた特別支援教育」

ウ 「初めて特別支援学級を担当する先生のためのハンドブック」H31.3 総合教育センター

エ 「初めて通級による指導を担当する先生のためのハンドブック」H27.3 総合教育センター

(令和3年3月一部修正)

(2) 自閉症・情緒障害のある子どもへの理解と対応～自立活動の授業を通して～

ア 自閉症・情緒障害について

- ・自閉症・情緒障害とは
- ・特別支援学級、通級による指導

イ 自立活動の指導の基本

- ・自立活動の指導とは
- ・自立活動の内容

ウ 自立活動の指導の進め方

- ・的確な実態把握に基づく、適切な指導目標の設定
- ・主体的な取組を促す指導内容、指導方法の工夫
- ・評価、改善による指導の最適化

エ 班別協議



本研修で学んだこと（参加者が記入した「研修の振り返り」から）

- ・しっかりと児童一人ひとりの中心的な課題は何かを把握することの大切さを学びました。やり方が先行してしまうと、それがその子にとって必ずしも有効なものではないということがよく分かりました。
- ・教師自身が指導の根拠を明らかにする必要性の重要性を再確認することができました。自分自身、活動を先に考えがちであったように感じ、一人一人の中心的な課題を十分検討し、指導目標を考えていきたいと感じました。
- ・吉江先生の講話を聞き、児童が将来よりよく生きていくために、児童自らが主体的に取り組む指導の工夫をし、障がいとうまく付き合う方法を身に付けていくことが必要だと改めて感じました。児童の良いところに目を向けた指導、自己選択・自己決定をさせ、主体的に取り組むことができる自立活動を行っていききたいと思います。
- ・今後個別の指導計画を作成する際には、「3年後の目指す姿」を具体的にイメージし、その上で「2年後」「1年後」の達成できる目標を設定したいと思いました。また、変化していく児童の実態に合わせて、改善の必要性がないかを検討する機会を設けたいと思いました。そのためにも、評価するときだけでなく、学級担任は常に指導計画を確認し、指導内容を把握できていなければならないと改めて感じました。
- ・自立活動での学びを学校内だけで活かすのではなく、家庭でも発揮できるようにするという視点を持ちたいと感じました。保護者と情報を共有しながら、連携していききたいと思います。
- ・具体的な内容を考える際には、つまずきの背景要因を考え苦手なことに対して「勇気をもって自分から取り組む」「安心して取り組める」「自信に繋がる」ことができるような内容を検討していきたいと思います。
- ・授業者だけが分かる授業内容ではなく、子どもたちやサポートに入ってくれる先生と連携しながら見通しがもてる授業にしたいと思います。
- ・グループ協議では、講話から児童の中心的な課題は何かも考えながら協議をすることができました。他校で同じように悩みながら児童と向き合っている先生方と意見交換ができる場はとてもありがたかったですし、さっそく実践してみようと思います。児童のできるところを認め、伸ばしていけるように努力していきたいと思います。
- ・他校の取り組みを知ることができて大変勉強になりました。また、悩みや困っていることを共有することで、お互いにアドバイスしたり励まし合ったりすることができて、また頑張ろうという活力が湧いてきました。

